



114  
A 105

呈今政十宜書

大隈參議執事、梓年壯好シテ、極言ヲ為ス、執事寛大容シテ之ヲ罪セス、良ニ梓ノ言ハント欲スル所ヲ盡サシム、梓已ニ執事ノ量ニ服ス、今又今政十宜ヲ業シ、時事ヲ論スル者、細大共ニ十箇條ソノ説、盡ク新ナラスト、雖氏自カラ、今政ニ切ナルヲ覺フ、馬ソシ之ヲ下、執事ニ呈メ、其當否ヲ質サシムルヲ得ンヤ、然レトモ、其書タル唯、徳ニ大綱ヲ記スルニ過キス、頼ル其詳悉ヲ辭ク、或ハ辭意ノ所在ヲ明カスニ足ラサル者アラシ、執事モシ辭説ヲ聽クヲ厭ハスシハ、幸ニ一日ノ閑席ヲ與ヘ、梓ヲシテ、其兩端ヲ竭クスヲ得セシメヨ、梓性愚魯、唯國ヲ憂フルヲ知テ、未タ人ノ愛憎ヲ顧ミルニ暇アラズ、故ニ書中ノ言、間ニ尊崇ヲ欠ク者多シ、執事其精神ヲ録シ、其不遜ヲ恕セ、ハ幸甚、梓頓首白ス



大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

今政十宜

目次

- 第一 宜變內閣之組織
- 第二 宜定施治之方嚮
- 第三 宜決外債之募集
- 第四 宜罷紙幣之燒棄
- 第五 宜衝外邦之弱所
- 第六 宜延二法之實施
- 第七 宜改會計之年度
- 第八 宜正津備之有樣
- 第九 宜定官吏之責任
- 第十 宜斷閑拓之廢廳



今政十宜

第一 宜變内閣之組織

今ヤ内閣其智畧才識ノ人ニ乏カラス又有所為ノ氣力ニ於  
 テモ素ヨリ餘アルカ如シ然ルニ施治ノ實蹟ニ就テ其果  
 シテ如何ナル哉ヲ察スルニ往々委靡振ハス宛マ為スコ  
 ト無キノ政府ニシテ其智畧才識ニ乏シキカ如シ惟フニ  
 是レ何ノ故ナル乎豈ニ内閣ノ組織ソノ宜ヲ得ヌ施治前  
 後矛盾スルノ故ニ非ラサルヲ得ンヤ抑モ我邦ノ内閣ヲ  
 組織スルヤ常ニ天皇ノ勅撰ニ出テ其事甚々重シト雖モ  
 敢テ同派ノ人ヲ撰擇シテ之ニ任シ給フト云フニ非ラヌ  
 隨テ其之ヲ組成スル諸大臣ノ如キモ亦未タ必シモ同一  
 政畧ヲ貴トノ人ニ非ラサル也故ニ内閣諸大臣十餘人  
 ノ中ソノ所見往々ニシテ相同シカラヌ遇々有用ノ策ヲ

建ルモノ有ルモ愚論ノ破ル所トナリ加フルニ大臣之ヲ  
上ニ統帥スルノ實権アラサルヲ以テ施政ノ方嚮恒ニ純  
一ノ進路ニ出テス一張一弛昨左今右動モスレハ内閣所  
操ノ主義ナキヲ疑ハシメ其蹟頗ル活潑有為ノ實ヲ失ス  
抑モ亦惜シムヘキ也梓今顧ミテ泰西諸邦置ク所ノ臺閣  
ナル者ヲ看ルニ大抵首相タル者其黨人ニ就テ之レカ器  
識アル者ヲ擇ビ之ヲ組成シ隨テ閣内ノ諸員ニテ政界ノ  
方嚮ヲ同フシ加フルニ首相コレヲ上ニ統帥スルノ實力  
アルハ施政常ニ一定ノ方嚮ニ向テ進動シ未々曾テ朝東  
暮西スルノ弊アラサルノミナラス其蹟ニ於テモ亦頗ル  
活潑有為ノ實アリ是ノ為イマ宜シク做フヘシ否ナ本邦  
今日ノ事情勢茲ニ出テサルヲ得サル也論者或ハ其為ノ  
做レ難キヲ唱ヘ擾乱ノ柄ナリト為スモノアリ是レ畢竟

一時ノ平和ヲ苟媮シテ永遠ノ實利ヲ忘却スル姑息說ニ  
過キス况ンヤ今日ノ事情ヲ以テ之ヲ推セハ一時ノ平和  
モ亦之ヲ久シキニ苟媮スルヲ得サルノ實アリ此際豈ニ  
優柔不断以テ天下ノ大計ヲ誤ルヲ得ンヤ是レ内閣ノ組  
織ヲ改ムヘキ所以ニシテ今政十宜ノ第一也蓋シ内閣ノ  
組織ニシテ能ク得テ之ヲ改メスレハ他ノ九宜モ皆亦コ  
レヲ實行スルヲ得ス徒ラニ天下ノ瓦解ヲ致スヘケレハ  
也

## 第二 宜定施政之方嚮

施政ノ方嚮定マラサル久シ而シテ其害ノ及フ所蓋シ擧  
ケテ之ヲ數フヘカラサル者アリ惟フニ是レ政府ノ弱所  
ニシテ活動ノ勢ニ乏キ職トシテ之ニ是レ由リ民間窺フ  
所ノ隙モ亦蓋シ是ノ間ニ生ス而シテ其方嚮ノ定マラサ

ル此ノ如ク夫レ久シキ者ハ他ナシ内閣ノ組織未ダソノ  
宜ヲ得ス大臣互ニ其心ヲ以テ心トシ未ダ曾テ内閣ノ心  
ヲ以テ其心ト為スアラサレハナリ唯夫レ此ノ如シ是ヲ  
以テ天下ノ民タルモノ往々政府施治ノ方嚮ヲ知ルニ由  
ナク其適從ニ迷フ者所在ニナ是レ也豈ニ當ニ天下ノ民  
タルモノノ迷フナランヤ夫ノ在廷ノ諸臣ニシテ  
奏任以上ノ官ニ在ル者ト雖氏尚ホ且ツ之ニ迷フ多シ噫  
々又歎スヘキノ至也今梓ヲ以テ之ヲ見ルニ施治ノ保守  
ニ取ル乎將タ改進黨ニ取ル乎ハ少ク問フ須井ス唯正サ  
ニ宜シク其向フ所ノ沿革ヲ一ニシ始終貫通シテ前後相  
矛盾スルコトナカラシムハキ而巳矣惟フニ維新以後今  
ニ至ルマテ幸ニシテ治途ヲコノ摸稜ノ間ニ歩スルヲ得  
タリト雖氏而モ今ノ時ハ既ニ昔ノ時ニ非ラス後ノ時ハ

復タ今ノ時ニ非ラサルヘケレハ昔時ノ僥倖ヲ今時ニ全  
フスルスラ尚ホ且ツ其危キヲ覺フ焉ソ之ヲ後ノ時ニ  
全フスルヲ得ヘケン哉是レ今日ニ於テ判然施治ノ方嚮  
ヲ一定シテ明カニ親仇ノ所在ヲ示スヘキ所以ニシテ今  
政十宜ノ第二也蓋シ施治ノ方嚮ニシテ能ク得テ之ヲ定  
メスンハ他ノ八宜モ亦皆テ得テ之ヲ施カス天下ノ亂是  
ヨリ生セサルヲ得サレハ也

第三 宜決外債之募集

紙幣發行ノ政畧ヲ保護スル者其コレヲ排撃スル者互ニ  
其説アリト雖氏要スルニ信用ノ數分ヲ損シ財產所有ノ  
安困ヲ害スルヲ以テ之ヲ今日ニ回復セサルヲ得スト為  
スニ至リテハ彼此共ニ同一ノ所見ニ歸ス是レ朝野ノ間  
ニ於テ嘗テ截斷燒棄ノ事ヲ論シ廟議終ニ歲計一千萬圓

ノ節約ヲ為スニ決シタル者ナル乎今梓ヲ以テ之ヲ見ル  
 ニ歳計一千萬圓ヲ節約シテ之ヲ救フノ畏善ハ則チ善ナ  
 リ然リト雖バソノ手段タルヤ甚緩漫ニシテ三年乃至五  
 年ヲ經ルニ非ラスンハ終ニ能ク其目的ニ達スルヲ得カ  
 ル也惟ルニ此ノ間ニ在テ紙幣價格ノ浮沈ニ憑ラ致ス所  
 ノ害ハ如何ンカ之ヲ防カントスル乎梓為メニ之ヲ疑ハ  
 サルヲ得サル也是レ急ニ公債ノ國債ヲ起シテ之ヲ救フ  
 ハキ所以ニシテ具眼ノ者ノ迷ハサル所也但タ之ヲ内國  
 ニ起ス乎將タ外國ニ起ス乎一同ニ至リテハ多少ノ識  
 論ナキヲ得スト雖氏内國起債ノ事既ニ容易ナラサルノ  
 實歴アレハ之ヲ外債ニ取ルハ亦誠ニ已ムヲ得サル者也  
 之ヲ要スルニ外債ヲ起スハ多少ノ非難ナキヲ得スト雖氏  
 之ヲ以テ紙幣價格ノ浮沈ニ依テ財產所有ノ安固ヲ妨碍

スルノ不利ニ比スレハ其害寧ロ少小ニシテ今コレヲ顧  
 ミルニ暇アラサルノ情アル也是レ外債ノ募集ヲ断行ス  
 ハキ所以ニシテ姑息ノ僻見ニ拘スヘカラサル者也但タ  
 募集スヘキノ金額或ハ之ヲ流通紙幣ノ全額ニ取ルハシ  
 ト云フモノアリト雖氏若シ苟モ断シテ外債ヲ起スノ議  
 ヲ決セハ未タ必シモ斯ノ如ク過激ノ措置ニ出ルヲ要セ  
 サル也唯正サニ流通紙幣總額ノ三分之一ニ相當スル者ヲ  
 以テ其極度ト為シ之ヲ募集スヘキ也蓋シ紙幣ノ信用既  
 ニ減殺シテ其後部ヲ失フト雖氏其實際ノ核事ニ就テ之  
 ヲ云ヘハ未タ必シモ想像ノ如ク夫レ甚シカラサレハナ  
 リ矣

第四 宜器紙幣之燒棄

紙幣ノ燒棄ヲ望ムハ殆ント世間一般ナルカ如シ而シテ

廟議モ亦タソノ燒棄ヲ是認シ昨年既ニ參百萬圓ヲ燒却  
シ今又現ニ百七拾萬圓ヲ燒却シ去レリ而シテ十四年度  
以後年々節約シテ得ル所ノ一千萬圓モ亦或ハ之ヲ燒却  
シ了ラントスルノ看アリ惟クニ是レ理財ノ真理ヲ得タ  
ル者予曰ク否也論者動モスレハ紙幣下落ノ因ヲ定メテ  
其多額ニ在リト為スト雖氏是レ其一ヲ知テ其二ヲ究メ  
サルノ見クミ莫抑モ需用ニ比シテ供給ノ多キハ其價  
格ノ減スルハ天下ノ通理ニシテ古今内外ヲ同ハス常ニ  
一樣ノ動搖ニ出ツルモノハ梓素ヨリ之ヲ知ル然レトモ  
夫ノ貨幣ナル者ハ他ノ品物ニ比スレハ需用ノ境域常ニ  
廣汎ニシテ會々其供給ノ過多ヲ致スコトアルモ新起ノ  
事業忽ニ創マリ直ニ其需用ノ平準ヲ正スヘキ者ナレハ  
設令ク若シ流通ノ貨幣ヲシテ多ク益々多カラシムルモ

夫ノ他物ニ更換スルノ能力ニ至リテハ殆ントソノ舊ヲ  
存シ人々ヲシテ之レカ減殺ヲ覺ラシムルノ甚ニ至ラサ  
ルハ又核實ノ事也故ニ苟モ紙幣ニシテ能ク貨幣ノ代理  
者タルノ信用アラシメハ未タ必シモ流通ノ多額ナルヲ  
以テ其價格ヲ下低シ去ラサル也然レトモ若シ不幸ニシ  
テ之ニ反シ紙幣ノ物ニシテ貨幣ヲ代理スルノ信用薄  
カラシメハ縦トモ之ヲ發スルノ少額ナルモ其價格ノ下  
低スルハ終ニ得テ之ヲ避クヘカラサル也本邦紙幣ノ下  
落スルソノ實因不更換ニ在リ既ニ不更換ノ故ヲ以テ其  
信用ヲ薄ラス然ルヲ又之ヲ不爲己ノ際ニ増發シテ其額  
ヲ多カラシメ會々其不信用ヲ増加セリ是ヲ以テソノ不  
更換ノ制ニシテ之ヲ改ムルヲ為サスハ縦トモ其額ヲ  
減殺スルモ紙幣ノ信用終ニ得テ之ヲ回復スヘカラサル



也又コレニ反シ其實因ニシテ能クコレヲ正スヲ得ハ縱  
トコソノ現數ヲ流通セシムルモ之レカ價格ニ至リテハ  
必ス其相當ニ復スヘキ也故ニ其實因ヲ救ハスニテ徒ラ  
ニ現行ノ紙幣ヲ燒却シ去ルハ當ニ其益ナキノミナラス  
又方サニ市場逼塞ノ一因ト爲リ爲メニソノ害ヲ起ス少  
小ナラサルヲ知ル也是レ紙幣ノ燒却ヲ罷メテ今政第三  
宜ノ政策ヲ断行スヘキ所以ニシテ梓ヲ以テ之ヲ見レハ  
年々節約シテ得ル所ノ一千萬圓ハ之ヲ鐵路等ノ創築ニ  
充テ一ハ以テ國內ノ生産力ヲ誘導シ一ハ以テ市場流通  
ノ途ヲ平易ナラシムヘキ也

### 第五 外宜衝外邦之弱所

條約ノ改正ハ廟議ノ已ニ在ル所ニシテ人々ノ已ニ熟言  
スル所ナレハ今更ニコレヲ陳スルヲ要セサルカ如シ然

ルニ今梓ヲ以テ之ヲ見レハ廟議ノ所在、或ハ遺憾ナキ能  
ハサル也抑外交ノ事常ニ機密ニ涉リソノ談判ノ詳細ハ  
局外ノ者コレヲ聞クヲ得スト雖モ廟議ソノ利弊ヲ開陳  
シテ之ヲ訂約諸國ニ通報シ切ニ其實行ノ速ナランコト  
ヲ請ヒシハ衆人ノ疑ハサル所也然ルニ梓尚ホ之ヲ遺憾  
トスル者ハ外交ノ累未タ外國政府ノ弱所ヲ衝クニ足ラ  
サルヲ覺フレハ也抑モ外國政府ノ常ニ畏レテ戒心スル  
所ノ者ハ其民社ノ輿論ヨリ甚シキハ莫シ而シテ其コレ  
ヲ畏ルニノ情ヲ見ルニ殆ント東洋諸邦ノ民タル者ソノ  
政府ノ威力ヲ畏怖スルモノ、如ク民社輿論ノ勢力、往々  
ニシテ政界ヲ動スニ足ルコトアリ故ニ外國政府ノ政界  
ヲ動スノ器機ハ其民社ノ輿論ヨリ利キハナク苟モ之ニ  
取テ之ヲ用ナハ其效ノ著大ナル古今ノ史乘ニ於テ既

ニ業ニ照然タリ是ヲ以テ今ノ時ニ當テ條約ノ改訂ヲ促  
スノ器機ハ彼ノ民社ノ輿論ヲ以テ第一トシ之ヲ鼓動シ  
テ外國政府ノ弱所ヲ衝クハ蓋シ外交ノ急ナル者也然ル  
ニ梓今未ダ廟謨ノ茲ニ出ルアルヲ聞カス蓋シ又憾ムハ  
キナリ是レ梓ノ故テニ此ノ一項ヲ掲ケ當路先輩ノ注意  
ヲ惹クモノニシテ今政要務ノ一也但タ外國民社ノ輿論  
ヲ鼓動スルニ道アリ必ラスヤ邦人ノ輿論ヲ喚起シテ之  
ヲ外國民社ノ輿論ニ反射セシメ以テ之ヲ成就スハキ也  
今ヤ邦人ノ條約改訂ヲ冀望スル深シ故ニ其輿論ヲ喚起  
スル事甚タ難キヲ見サル也

第六 宜延二法之實施

刑法治罪法ハ條約改訂ヲ促ス為メ其發布ヲ速ニシ其實  
施モ亦タ將サニ近キニアラントス而シテ其創定ニ依テ

多少ノ實益ヲ本邦ニ擧ケタルハ世ノ信シテ疑ハサル所  
也然レトモ一利アレハ茲ニ一害アルハ事物ノ常数ニシ  
テニ法實施ノ如キ利ハ則チ利アリト雖モ又コレニ所添  
スル害アリテ其間ニ生スルナキヲ保セス而シテ相當ノ  
費額ヲ給セスシテ之ヲ實施セシメントスルカ如キ其害  
最モ大ナリ頃日司法卿奏スニ法ヲ實施スル為メ法衙ノ  
築造修繕ヲ要スル者數多ソノ費額無慮七拾萬圓ニ下ラ  
ス然リト雖モコノ巨大ノ金額イマ之ヲ辦スルニ由ナシ  
故ニ節縮シテ必拾一萬圓餘トセント其所奏ノ七拾萬圓  
ハ何等ノ目安ヨリシテ之ヲ打美セルヤ今之ヲ知ルニ由  
ナレト雖モ其費途ノ五拾萬圓ヲ降ルハカラサルハ十人  
ノ所見ニシテ蓋シ疑フヘカラサル者也然ルヲ今コレヲ  
節縮シテ僅ニ廿萬餘圓トシ其半額ニ滿タサル者ヲ以テ

之ヲ文辨シ去ラントス豈ニ過節ノ甚キ者ナリト云ハサルヲ得ンヤ而シテソノ過節ニシテ終ニ之ヲ以テ二法ヲ正當ニ施行スルヲ得サルハ昭々手トシテ之ヲ掌ニ視ルヲ如シ是レ徒ラニ二法ヲ實施スルノ知ヲ欲シテ其實ノ如何ヲ顧ミサルノ所為ニシテ之レカ統理ヲ受クル民社タル者安ンソ其不便ノ弊ヲ蒙ラサルヲ得ンヤ惟フニ内邦民社ノ不便ノミニシテ止ラハ或ハ之ヲ強テ可ナリ云フヲ得ンモ如何ヒン是ノ假作ノ施行未タ以テ外人ノ心ヲ服スルニ足ラス隨テ條約改正ヲ促スノ一助ト為ヌヲ得サルニ於テハ安ンソ之ヲ稱シテ事ノ可ナル者ト云フヲ得ンヤ果シテ然リ故ニ若シ司法卿ノ奏言ニ取テ之ヲ實施セシメナハ是レ廿餘万金ヲ擲テ邦人ノ不便ト外人ノ笑侮トヲ買フ者ニ均シク其政畧ニ益ナキ梓断シテ之

ヲ知ル是レニ法ノ實施ヲ延ハスヘキ所以ニシテ夫ノ虛聲ニ假テ外交ノ事ヲ擧ケント歎スルハ本邦今日ノ政畧ニ於テ蓋シ未可ナル者アレハ也

第七 宜改會計之年度

曆年ニ沿テ會計ヲ區畫スルノ制ヲ改メテ別ニ會計ノ年度ヲ制定シ毎年七月ヨリ起翌年六月ニ終ルノ法ヲ布クノ一舉ハ理財ノ政ニ於テ大ニ改進ノ途ヲ為ス者ナリト雖其其之ヲ七月初六月終結ノ制ニ定メタルハ其一ヲ知テ其ニヲ究メサルノ措置ニシテ蓋シ惜ムヘシト為ス也夫レ會計ノ年度ヲ制定シテ曆年ニ沿ハサル所以ノモノハ他ナシ收支ノ關係ヲ容易ナラシムルノ一點ニ在ルノミ故ニ其年度ノ區畫ヲ為ス專ラニ收入ノ便宜ヲ考ヘ其上半季以前ニ於テ歳入ノ多計ヲ收入スヘキノ時ヲ擇ヒ

ソノ期ヲ立<sup>ツ</sup>也抑モ本邦歳入ノ第一位ニ  
居ルモノハ夫ノ地稅ニシテ實ニ歲計ノ九分ヲ占ム而シ  
テ其收入ノ便宜果シテ今ノ年度ニ於テ之ヲ享クルコト  
ヲ得ル乎蓋シ智者ヲ待スシテ之ヲ享ケサルヲ知ル也故  
ニ國庫出納ノ實況ニ就テ之ヲ見ルニ毎年々度ノ上半季  
ニ於テ紙幣交換部等ヨリ借入シテ常用ノ經費ヲ支辨シ  
以テ本年收入ノ時ヲ待ツ今時ノ恒例トセリ今國庫出  
納ノ原簿ニ就テ借入ノ總額ヲ調査スルニ十二年度上半  
季中約千三百萬圓ヲ餘シ十三年度ノ上半季モ亦均シク  
約千九百八拾萬圓ヲ餘セリ但々此中仮納金ヨリ借入ス  
ル者若干圓アリト雖モ其多部ハ交換部ヨリ借入スルヲ  
見ルヘケレバ之ヲ断シテ會計ノ年度收入ノ便宜ニ沿ハ  
スト云フモ決シテ妨ケアラサル也論者或ハ地稅ノ納期

ヲ改正シテ會計ノ年度ニ沿ハシメントスル者アリ其說  
未タ可ナラスト云フヲ得スト雖モ而モ之ヲ今日ニ施行  
スルハ政畧上大ニソノ不可ナルヲ覺フ是レ梓ノ會計年  
度ヲ改メント欲スル所以ニシテ蓋シ九月十月ノ間ヲ以  
テソノ期ト為サンコトヲ望ム切ナリ矣

第八 宜正準備之有様

紙幣交換準備金ノ事ハ世人ノ常ニ注目スル所ニシテ其  
狀況ノ果シテ如何ナルヤヲ疑フ久シ<sup>探</sup>明治十一年  
定ムル所ノ準備金條例ニ據レハ本位金<sup>實</sup>一千万圓ヲ存  
住シテコレヲ不動準備金ト為ストアリソノ收常ニ一千  
萬圓ノ正貨ヲ積テ之ヲ國庫ノ中ニ存住レ紙幣交換ノ不  
虞ニ備フル者ノ如シ然レトモ是レ實ニ違フノ空想ノ  
ソノ核情未タ此ノ如ク美<sup>夫</sup>ナルニ非ラス夫ノ本位正貨一

千萬圓ヲ積テ不動ノ準備ト為スカ如キ唯總ニ昔日ノ談  
話タルニ過キサル也今明治十三年八月十六日調製スル  
函ノ計表ニ據ルニ準備部ノ在高金實ニ百拾七萬六千圓  
餘ト稱ス而シテ其中金貨アリ銀貨アリ貿易銀アリ紙幣  
アリ金券アリ其實貯既ニ世人ノ所信ニ違フノミナラス  
又之ヲ公債証券書株券ニ換フル者無慮六百七拾四萬八千  
圓餘アリテ其準備金タルノ性質ヲ失シタル者頗ル多シ  
是レ蓋シ當時事ノ已ム得ナル者アリテ知ラス識ラス茲  
ニ至リシ者ナルヘシト雖モ此ノ如キノ有様ヲシテ永ク  
準備金ノ間ニ存セシム當テ之ヲ正スラ<sup>為</sup>サミルハ梓明  
ニソノ得策ニ非ラカルヲ知ル也是レ準備金ノ有様ヲ正  
スヘシト云フ所以ニシテ梓ハ廟議早ク外債ノ募集ヲ決  
シ之ヲ以テ此ノ忌ムヘキ會計ノ状態ヲ一變セント欲ス

ルヤ切ナリ矣

第九 宜明官吏之責任

本邦官吏ノ責任ハ有ルカ如ク無キカ如ク隱見明滅殆ン  
ト原頭ノ鬼火ノ如シ而シテ其有ルモノヨリシテ之ヲ言  
ハハ夫ノ官吏懲戒條例ノ如キ儼然トシテ其條款ヲ申明  
シ其無キモノヨリシテ之ヲ言ハハ諸官ノ職權相混同シ  
テ未タ統一スル所アラス為メニ吾人ヲシテ之ニ惑ハシ  
ムル深シ矣明治九年四月十四日太政官布告ス新律綱領  
改定律例中職制律及ヒ官吏ノ公罪ニ係ルモノヲ廢シ自  
今官吏職務上ノ過失ハ有心故造私罪ニ入ルモノヲ除ク  
外其本屬長官ニ任シテ懲戒處分セシムト是レ懲戒ノ  
令條ヲ申明スルノ基本ニシテ今其令條ノ大要ヲ擧クル  
ニ其第一條ハ本屬長官ノ所屬官吏職務上ノ過失ヲ懲戒

スルノ権アルヲ示シ第二條ハ懲戒法ノ種類三箇アルヲ  
申シ第三第四第五條ハ懲戒法施行ノ大則ヲ示シ第六第  
七第八條ハ何人カ能ク之ヲ懲戒シ得ルヲ示シ第九條ハ  
官吏ノ私罪ハ本屬長官コレヲ懲戒スルヲ得サルヲ示ス  
而シテ之ニ添フルニ懲戒心得ナルモノヲ以テシ事犯ノ  
有害無害ヲ分テコレヲ輕重スルノ法及ヒ主從ヲ分ツノ  
法等ヲ指示シ其令甚タ嚴肅官吏ノ責夫レ重キカ如シ然  
リト雜氏本令諸條ニ揭示スル所ノ明文ニ就テ之ヲ味フ  
ルニ第五條ノ如キ第六第七條等ノ如キ共ニミナ奏任官  
以下ノ懲戒例ナルヲ明言シ夫ノ勅任ノ諸官ニ至リテハ  
内閣ノ大臣ハ言フモ更ナリ諸省ノ長次官ノ如キ公罪ヲ  
犯スニ當テ何事ノ法ヲ以テ之ヲ懲治スル乎梓未タソノ  
明文法アルヲ見サル也況ンヤ奏任官以下ノ諸官ト雜氏

職制上細カニ其職權ノ所在ヲ示サシレハ未タソノ責任  
ノ所在ヲ知ルニ由ナク懲戒ノ例夫レ嚴肅ナリト雜氏職  
務ノ活動ヲ實際ニ獎勵スルノ効力ヲ有セサル也且ツ去  
年十二月各省ノ職制章程ヲ改定シ諸省卿ヲシテ其施行  
ノ責ヲ任セシムト雜氏未ダ之ヲ監視懲戒スルノ明文法  
ヲ示サス為ニ首アリテ尾ナク始アリテ終リナキノ歎ア  
ラシム是レミナ責任ノ有カ如キ無キカ如キノ間ニ出沒  
スルモノニシテ寧ロ之ヲ稱シテ擧朝ノ官吏ミナ法制上  
ノ責任ナシト謂ツヘキ也是レ官吏ノ責任ヲ定ムヘキ所  
以ニシテ若シ能ク之ヲ定ムルヲ得スンハ政治ノ活動平  
必終ニ得テ之ヲ望ムヘカラサル也

第十 宜断閑拓之廢廳

閑拓使ヲ置テ以來既ニ十餘年ヲ過キ其全權ヲ使ノ長

官、委シテヨリ又將キ二十年ヲ經ントス惟フニ其間何等ノ事業ヲ實際ニ成就スルヲ得シ乎吾人共ニ之ヲ聽ント欲シテ未タ聞クヲ得サル所也北海ニ游フ者或ハ開拓ノ業、日下ニ其緒ニ就キ十年餘間施行スル所ノ事業、著大ナルヲ證スル者アリ或ハ其業ノ見戲ニ類シ十餘年間費ス所ノ資金ト其價ヲ同フセサルヲ咎ムル者アリ其所見當クニ霄ト壤トノミナラス吾人未タ其適從スル所ヲ知ラサル也故ニ明ニ其施業ノ得失ヲ論セント欲セハ彼ノ地境ニ入テ其實況ヲ目撃スルニ非ラスンハ終ニ得テ之ニ從事スヘカラサルカ如ク梓令、坐上ニ在テ之ヲ識ス或ハ其正鵠ヲ失スルモノアラシ然リト雖氏梓ノ親カラ聞知スル所ノ者ヲ以テ之ヲ推シ又該使ノ京城等ニ在リテ施ス所ノ事業ヲ察シ更ニ其十餘年間該使ノ費用ニ充

テシ金幣ノ總額ヲ概算シ之ヲ實際擧クル所ノ事業ニ配スルニ其價、寧口過高ニシテ其平準ヲ得サルヲ見ルナリ況ンヤ其施行スル政事ノ蹟、成就之ヲ論スレハ課税ノ如キ屯田兵ノ如キ裁判ノ如キ殆ント別ニ一政府ヲ立ツルモノ、如ク甚シキハ開拓ノ本意ニ背馳スル者ナキヲ保ヤス其弊一ニシテ足ラサル也蓋シ是レ廟堂諸先輩ノ既ニ業ニ知ル所ニシテ梓ノ言ヲ待タサルモノナルヘシ然ルニ廟議未タ之ヲ廢スルノ決アラサル者ハ抑モ何ソヤ他ナシ其長官ニ委スルノ期未タ滿タサルヲ以テスル再故ニ其期ニシテ一タ、盛タハ又再コレヲ之ニ委セザルハ事ノ甚々著明ナル者ニシテ廟議ノ之ヲ誤ラサルハ梓明ニ之ヲ知ル然リト雖氏當該ノ官吏タル者其事業ノ未タ成就セサルヲ陳シ更ニ其期ヲ緩フセンコトヲ請フ

ニ公シテ廟堂或ハ其情ニ私シテ其期ヲ延スノ議ニ出ツ  
ルノ恐レナキヲ得ス若シ苟モ不幸ニシテ斯延期ノ議ヲ  
決スルアルニ過ハレ是レ所謂ル弊ニ重ヌルニ弊ヲ以テ  
スル者ニシテ其不利寧口小少ナラサル也是レ梓ノ今故  
ラニ開拓ノ廢廳ヲ断スヘシト云フ所以ニシテ蓋シ北海  
道ヲ分テ三四縣トシ之ヲ分治セシメント歎スル也之ヲ  
今政第十宜トス



